



千葉市指定文化財になっている千葉市美術館さや堂ホール

「検見川送信所を知る会」会報

# J1AA通信

第6号

2009年1月1日(木)発行

## 「送信所シンポ@さや堂」決定

### 2月14日(土)、千葉市美術館で

「検見川送信所を知る会」が2月14日(土)、千葉・中央の千葉市美術館で「検見川送信所シンポジウム@さや堂」(仮題)を開催します。検見川送信所は「知る会」の活動を契機に、千葉市が保存を検討し、文化遺産の道を歩もうとしています。千葉市では「国の登録文化財が妥当」との考えを示していますが、文化財には「指定文化財」と「登録文化財」などさまざまな手法があり、その選択によって、将来が変わっていくと思われる。送信所にとってベストの選択は何か、送信所のあるべき未来について、みなさんと考えたいと思っています。また、2008年11月26日には千葉県建築家協会主催による見学会が開かれ、初めて内部を見ることができました。そのレポートも裏面で詳細に報告しています。

**入場無料**

送信所は東京中央郵便局などを手がけた吉田鉄郎氏が設計した大正末期のドイツ表現派風のモダニズム建築で、1930年(昭和5

## 登録文化財か指定文化財か みんなで考えよう

年)には日本初の国際放送を行うなど日本の通信の発展にも大きく貢献しました。

1979年(昭和54年)の閉局後は取り壊しの話が出ていましたが、「知る会」の呼びかけに、国際的な建築団体「ドコモモ・ジャパン」、日本建築家協会」が賛同。専門家から保存・利活用を求める声が大きくなりました。

これを受け、千葉市は方針を一転、保存を検討し始めました。ただ、文化財の保存には「国登録」と「市指定」がありますが、千葉市は「市指定文化財」は、市民からの要望がある利活用が実現できないので、「登録文化財が妥当」と言います。果たして、そうでしょうか？

「市指定文化財」として利活用が実現している旧川崎銀行(現・千葉市美術館)を会場に、みなさんと一緒に「登録文化財」とは何か? 「市指定文化財」とは何か? を考え、送信所保存・利活用のあるべき道を探っていきたくて考えています。

日時2009年2月14日(土) 11:00~16:30

プログラム11:00~12:00:見学会13:30~16:30:シンポジウム

場所〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

見学会:千葉市美術館鞘堂(旧川崎銀行千葉支店)シンポジウム:千葉市美術館11階講堂

アクセスJR:千葉駅下車東口より徒歩15分京成電鉄:千葉中央駅下車 東口より徒歩10分千葉都市モノレール:葭川(よしかわ)公園駅下車 徒歩5分

参加費無料

総合司会 沖 昌幸(検見川送信所を知る会)

シンポジウム・パネリスト 岡部則之(岡部則之計画工房)堀勇良(元文化庁)仲佐秀雄(検見川送信所を知る会代表)夏目勝也(千葉県建築家協会 保存文化部会)

コーディネーター 安達文宏(関東甲信越支部(JIA)保存問題委員会)

問い合わせ先 検見川送信所を知る会 Tel & Fax: 03-276-0444

主催 検見川送信所を知る会

# 外観以上に素晴らしい内部

## パラボラとアーチの意匠は健在

日本建築家協会  
安達 文宏氏

### 2008.11.26

鉄の扉がついに開け放たれた

#### 検見川送信所内部見学会

(日本建築家協会関東甲信越支部主催)

内部レポート①



検見川送信所外観

11月26日(水)好天に恵まれた午後、千葉県建築家協会(J1AA千葉)保存文

化部会主催の見学会が開催されました。参加者は14名で、その中には「検見川送信所を知る会」の2名(送信所OB岩佐氏と送信所図面提供の久住コウ氏)にも加わっていただきました。建物はJR新検見川駅から海側に歩いて10分足らずの所にあります。1979年の閉局から今日まで30年近くが経ち、外壁(特にファサード)の剥落が目立つなど、建物全体の傷みが非常に懸念される状況になっていました。ここでは是非と

も内部に入り全体の状況も早急に確認する必要性を感じ、急ぎよ見学会を行ったものです。検見川稲毛土地区画整理事務所を通し鶴岡千葉市長の許可を得て、閉鎖後初めて一般への公開が実現しました。はじめに岩佐氏の説明を聞きながら外観を見ました。建物全体は御影石を使った人造石洗い出し仕上げで覆われています。目地は無く建物全体が一つの塊のように思われ、すごい存在感があります。建物の角は全てアー

ルがつき、パラペットも断面はパラボラアーチ状に丸みが付いています。開口部はほとんど鉄板で覆われて窓の形状も分かりませんが、2階の鉄板で覆わ

れていない一部の窓周りをみるとやはりアールで納められています。外部全体はそれほどでもありませんが、ファサード部分の人造石洗い出し仕上げの剥落がひどく、コンクリートの被り厚さの不足もあいまって鉄筋が錆びて爆裂を起しています。内部に入ると外部以上にパラボラアーチやアールなど、当時の通信省建築の特徴をとどめているには非常に驚かされました。内部仕上は基本的に壁、天井共漆喰(場所によってはブラスターもあるか?)塗り仕上げで、壁と天井、梁と天井のとりあいもすべてアールで、梁の下面は線型等を施していました。内部は、外観からは想像も出来ないくらい状態が良く、壁天井の左官仕上に塗った塗装がはがれている程度です。柱、壁、梁、天井を見ても、地震等による構造クラックや左官仕上に伴うクラック等もほとんど目視で確認出来

ませんでしたが、また、当初非常に心配だった雨漏り等の形跡も確認できず、屋上のアスファルト防水はいまだに健在のようです。南側ファサードを見てみると、全体的に丸みを帯びていて、階段下の1階入り口はボールト天井になり、2階入り口天井は半円形のバルコニーになっています。外壁コーナーもアールを取り、階段・バルコニー手摺やパラペット上部はパラボラアーチ状の曲線を描いています。外部仕上は、御影石入り人造石洗い出し仕上げで、目地がありません。一部外壁が剥落して、錆びた鉄筋が見えています。1階入り口を入った所が階段室になっていて、階段が螺旋状にペントハウスまで続いています。正面上部



1階階段室

1階部分のパラボラアーチ



1階部分のパラボラアーチ



2階応接室前にもアーチ

発行元：検見川送信所を知る会  
代表：仲佐秀雄

〒262-0026  
千葉市花見川区瑞穂2-1-1-20-908  
&ファクス：043 276 0444  
http://kemigawaradio.web.fc2.com/  
mail:kemigawamusen@mail.goo.ne.jp

検見川送信所を知る会  
HPには全文掲載中。映像も配信中